

# 「自治医大附属病院 2025プラン」(H29(2017)年9月)の概要

栃木県  
医療政策課

## 医療機関の現状と課題

### 【特徴、政策医療】

- ・ 高度急性期・急性期医療を中心に安全で質の高い医療を提供
- ・ 地域がん診療連携拠点病院の指定・・・増強する中央手術部において2,000件の手術件数増(9,000件⇒11,000件)・・・外来治療センターの拡張・・・高精細放射線治療件数割合の増加
- ・ 救命救急センターと脳卒中センターとの協力体制をより一層強化し、24時間t-PA治療を迅速に行える体制の確立
- ・ 新館南棟開設により心カテ装置を1台増設・・・地域連携パスの運用を強化
- ・ 糖尿病診療においては、地域連携パスが既に運用・・・急性期診療に重点
- ・ 認知症疾患医療センター・・・「認知症を合併する急性期疾患」診療体制を強化
- ・ 三次救命救急センターとしての機能を強化・・・多発外傷等の高度救急症例の緊急搬送を受け入れ
- ・ DMATを派遣・・・大規模災害時に備えたBCPを平成29(2017)年に策定
- ・ 栃木県のへき地医療をサポート・・・医師の派遣要請に引き続き応えつつ可能な限りのサポートを検討
- ・ 総合周産期母子医療センター・・・現在の機能を維持
- ・ とちぎ子ども医療センター・・・現在の機能を維持

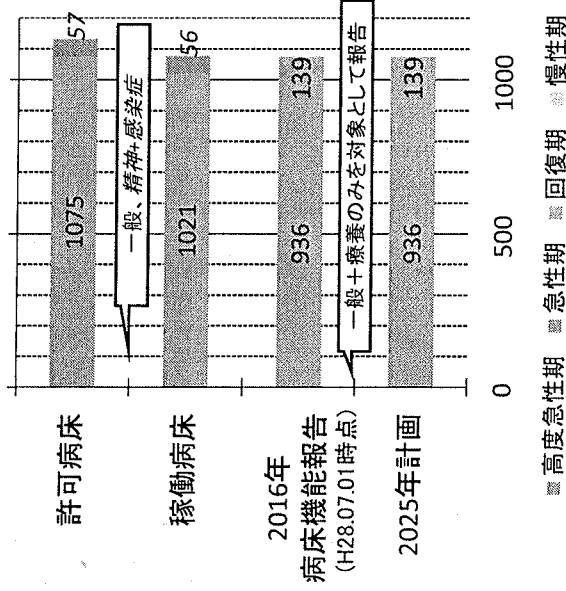
### 【地域との連携】

- ・ 患者サポートセンターを設置
- ・ 地域臨床教育センターを設置・・・医学部学生に対する卒前教育や若手医師に対する卒後教育

### 【課題】

- ・ 本区域で担っている高度急性期・急性期病床機能の維持及び強化・・・本区域だけでなく栃木県全体の増加する医療需要の受け皿となることを目標
- ・ 5疾病5事業の中では、特にがん、脳卒中、心筋梗塞、救急医療に重点を置いて診療機能を強化
- ・ 本区域内での機能分を推進
- ・ 「医師の働き方改革」について取り組みを強化

### 【病床の状況】



### 今後の方針

#### 【今後持つべき病床機能、その他見直すべき点】

- ・ 栃木県における高度急性期医療のリーダーとして、安全で質の高い医療を提供すると共に地域医療に貢献する医療人の育成
- ・ 高度急性期・急性期医療を中心とした医療提供体制を整備し・・・5疾病5事業の政策医療を含めた栃木県全体の医療に貢献できるよう、診療機能を強化
- ・ 地域におけるプライマリケア(一次救急、在宅での看取り、地域包括ケアシステムなど)についても可能な限りの支援

### 定勤職員数

医師	721
看護職	1404
その他医療専門職	385

# 「獨協医大病院 2025プラン」(H29(2017)年10月)の概要

栃木県  
医療政策課

## 医療機関の現状と課題

### 【特徴、政策医療】

- ・ 高度の知識と技術を備えた医師を養成するとともに、高度な医療の提供と、医療に関する開発・評価及び研修を行う特定機能病院として地域医療の中核を担っている。
- ・ 認知症老人に対する健康医療・福祉サービスの向上を図るため栃木県指定機関として認知症疾患医療センターを開設。
- ・ ハイリスクの妊婦や極小未熟児に対して従来の産科・小児科の枠を超えた高度な医療を一貫して提供する総合産科母子医療センター開設。
- ・ 救命救急センターを開設し平成22年1月より栃木県ドクターヘリの運航を開始し、栃木県全域の三次救急医療の一端を担っている。

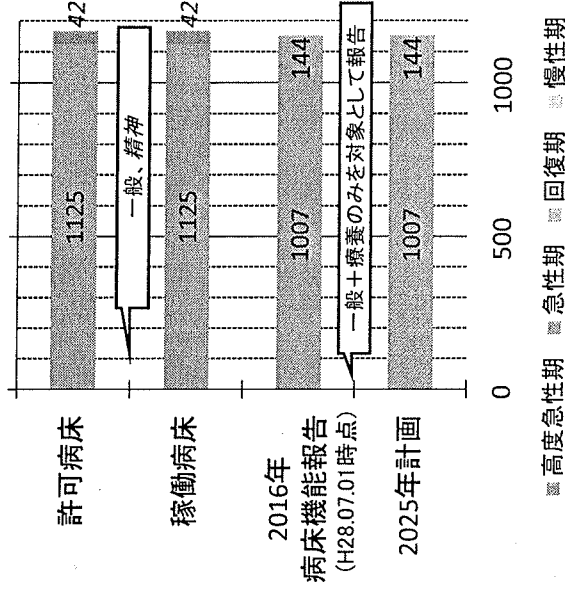
### 【地域との連携】

- ・ 特定機能病院として高度先端医療の提供と、地域社会の中核となる医療センターであるとの自負

### 【課題】

- ・ 急性期を脱した回復期あるいは慢性期患者の受け皿が他の都道府県と比較して少ない傾向・・・特定機能病院としての機能を維持すると共に、後方支援病院の確保・整備を強化して急性期医療を必要とするひとりでも多くの患者が適切に高度な医療が受けられるよう連携医療ネットワークの強化・地域包括ケアシステムの構築を目指したい

### 【病床の状況】



### 今後の方針

#### 【今後地域において担うべき役割】

- ・ 高度急性期および急性期を中心に、現在県内外の患者に果たしている機能の維持・強化
- ・ 高度急性期及び急性期を中心に円滑に運営するために、回復期、慢性期の病床機能を持つ病院、在宅医療を担う病院等との連携強化

#### 【今後持つべき病床機能、その他見直すべき点】

- ・ 脳卒中センターの設置も予定
- ・ 今後県内外の患者に、現在担っている社会的使命を果たしていく必要があり、現在の急性期病床機能を引き続き維持
- ・ 変化する医療需要に対応できる経営体質を構築

栃木県医療	
医師	605
看護職	1144
その他医療専門職	352

# 「TMCしもつが 2025プラン」(H29(2017)年10月)の概要

栃木県  
医療政策課

## 医療機関の現状と課題

### 【特徴、政策医療】

- ・ 県南医療圏には2つの大学病院が所在し、地理的な視点で医療機能を捉えれば高度急性期・急性期の機能は充足している感がある。しかしながら、医療機能の分化による高度急性期における他の医療圏からの流入を踏まえれば、現在の高度急性期・急性期機能は、少なくとも維持、または更なる強化が求められ、過度に大学病院に頼らない体制を保持することが必要
- ・ H28.5 許可病床(実:病床機能)

	一般	緩和ケア	感染症	療養	合計
しもつが	301		6		307
とちのき	114	14		122	250

- ・ 平成28年5月のとちぎメディカルセンターしもつがの新築移転を以って、法人全体における医療機能の再編に向けた施設整備が完了し、急性期:しもつが、回復期・慢性期:とちのき、保健・介護:総合健診センター・とちぎの郷等と、新たな使命のもと施設運営を開始
- ・ 一般・急性期の診療科別患者数割合 入院患者数の割合は、整形外科15.1%・内科系49.7%、外科系49.8%・がん、脳卒中、急性心筋梗塞の取扱い症例数は決して多くなく、特に脳卒中・急性心筋梗塞の24時間体制での積極的な受入を行うには、医師の配置数が不十分と認識
- ・ 地域包括ケアの科別割合 入院患者数の割合は、整形外科32.6%、呼吸器アレルギー19.7%、外科12.3%、呼吸器科11.1%、循環器科10.8%

### 【地域との連携】

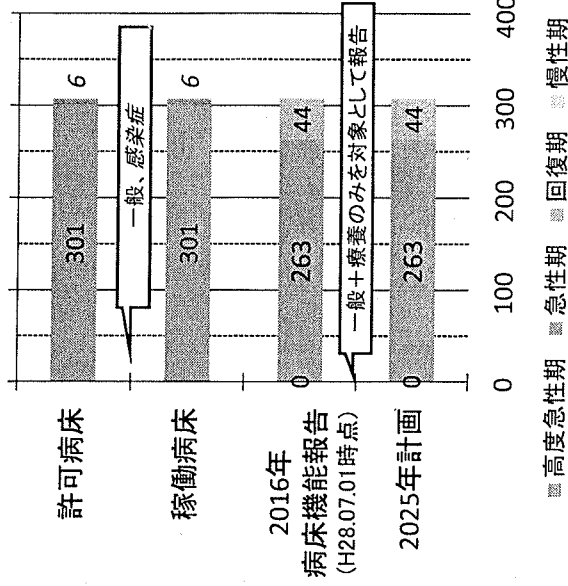
紹介率 56.8% (H29.08)

- ・ 地域診療所からの紹介を始め、法人内の急性期機能の集約により、紹介・逆紹介は活発な経過

### 【課題】

- ・ 医師確保が最大の課題・過度な大学病院への依存を解消すべく、特に内科系医師の常勤化(医師確保)を図りたい

### 【病床の状況】



### 今後の方針

#### 【今後地域において担うべき役割、今後持つべき病床機能】

- ・ 既に稼働・展開している急性期医療の機能拡大
- ・ がん・脳卒中・急性心筋梗塞の治療体制の確立
- ・ とちぎメディカルセンターとちのき 既に確定している回復期・慢性期医療の機能拡大

常勤職員数	
医師	46
看護職	207
その他医療専門職	106

# 「新小山市民病院 中期計画」 (H29 (2017) 年3月) の概要

栃木県  
医療政策課

## 医療機関の現状と課題

※「目標を達成するため取るべき措置」の記述

### 【特徴に関する記載】

- ・ 地域を担う中核病院として、診療部門相互の連携のもとで総合的な医療を提供・・・入院や手術を中心とした急性期医療を安定して提供
- ・ 24時間365日断らない救急医療を目指す
- ・ 栃木県がん治療中核病院として・・・放射線治療に伴うハード整備の検討
- ・ 脳卒中ケアユニット(SCU)を有する脳卒中センターの充実
- ・ 循環器センターの整備
- ・ 糖尿病の予防や糖尿病合併症治療などの糖尿病専門治療の充実を図る
- ・ 地域のニーズに応えられる小児医療体制の充実と、小児救急二次輪番病院としての機能を確保・・・小児救急のレベルアップ
- ・ 早期に地域周産期医療機関の再開を目指す
- ・ 市及び関係機関との連携を密にして、災害発生時に迅速な対応

### 【地域との連携に関する記載】

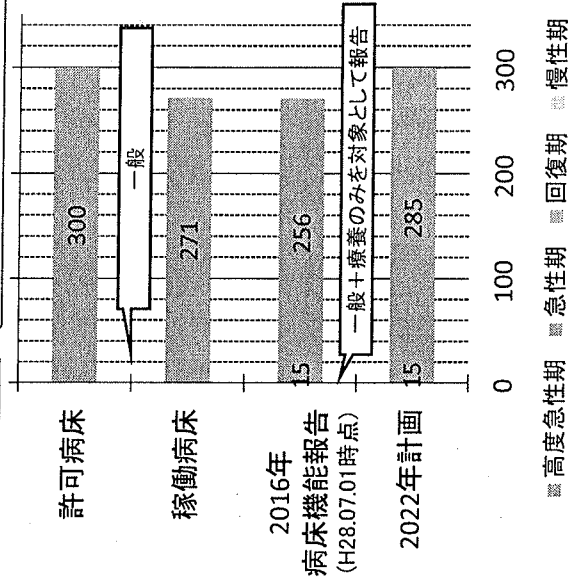
- ・ 地域医療支援病院として、前方連携となる診療所等医療機関(かかりつけ医)と連携し、かつ後方連携となる機能の異なる隣病院等と連携の充実を図り
- ・ 住まい・医療・介護・予防・生活支援が一体的に提供できるような地域の医療・介護関係機関と連携
- ・ 認知症疾患医療センターの開設及び訪問看護体制の整備を図る

紹介率 76.6%

逆紹介率 83.5% (H27年度)

### 【病床の状況】

※H28年病床機能報告のもの



### 今後の方針

※「その他」の記述

### 【その他に関する記載】

- ・ 小山市地域医療推進基本計画の新小山市民病院に課せられた数多くの各種施策の達成を目標に努力

奨励職員数 (H29.3)	
医師	52
看護職	255
その他医療専門職	95